

資料編

1. 検討の経過

平成 24 年	5月 22 日	平成 24 年度過疎地域等自立活性化推進交付金事業採択
	8月 24 日	事業着手
	9月 14 日	第 1 回二セコ町たびいく推進委員会開催
	10月 20 日	【実証実験】「地産地消の旅」（自然エネルギーや自然環境から「食（農業）」を学ぶツアー）の実施
	12月 3 日	第 2 回二セコ町たびいく推進委員会開催
平成 25 年	1月～2月	たびいくに関する住民アンケート調査の実施
	1月 4 日～ 2月 8 日	【実証実験】電気自動車を活用した旅育ツアーの実施
	1月 25～26 日	【実証実験】「食と環境を美味しく学ぶツアー」（環境（ゼロエミッションライフ）を学ぶツアー）の実施
	1月 28～30 日	先進地視察による道外調査の実施 （福岡県北九州市、福岡県久留米市）
	2月 18 日	第 3 回二セコ町たびいく推進委員会開催
	3月 11 日	第 4 回二セコ町たびいく推進委員会開催

2. ニセコ町たびいく推進委員会名簿

委員長 中 島 日出男
(株式会社 ニセコリゾート観光協会 代表取締役社長)

副委員長 大 迫 理 沙
(北海道大学観光学高等研究センター 学術研究員)

委 員 得 能 万 季
(セゾンクラブ オーナー)

工 藤 達 人
(ニセコ町農観連携協議会 会長)

木 下 裕 三
(株式会社 ヤマト 代表取締役社長)

山 本 契 太
(ニセコ町 商工観光課長)

Eva-Maria Haslauer
(ニセコ町 国際交流員)

3. ニセコ町たびいく推進委員会議概要

(1) 第1回ニセコ町たびいく推進委員会会議概要

(平成24年9月14日 13:30～ ニセコ町役場2階 第二会議室にて)

1. 開会

2. 挨拶 片山町長

地域資源を活かした物質の循環、エネルギー自給率をあげて地域でエネルギーを使い、二酸化炭素排出量削減世界ナンバーワンになる、地域の資源を活かして地域内でのカネの回るしくみをどうするのか、という3つの課題がある。これらに農業と観光という軸を連携させて取り組んでいきたいと考えている。観光地としてのスタートラインに立ったところで知名度はない。中国や韓国でも、日本への留学経験がある人でさえニセコを知らない。知名度を上げることが必要。

来た人が、また来たいと思うホスピタリティ、ハード面の双方を上げていく。今回は、「環境」「旅」の切り口で進めていくきっかけにしたい。これをステップに次につなげていきたい。みなさんのビジネスにつながっていったらと思う。

3. 委員の紹介等

中島

観光協会も中心になる課題。二酸化炭素を出さずにリゾートで楽しんでもらうことには既に取り組んでいるが、それにEVを結びつけて、ニセコ町への集客、観光振興を図りたい。

大迫

商工会と人材養成で連携している。

工藤

「旅育」は、新しい切り口になると思う。いいものをつくりたい。

得能

ニセコ町から電話が来て、参加することとなった。

木下

ちょうど進めようと思っていることに近い。自分の事業で活かして、コーディネートしてゆきたい。

山本

ニセコ町は「環境」でいろいろ取り組んでいる。「観光」も結びつけていきたい。

エヴァ

ヨーロッパでは「旅育」は進んでいる。地元の資源を使ってやっている。それらのヨーロッパの知識を応用してやっていきたい。

吉田

みなさんの意見を聞きながら、良いものにしていきたいと思っている。

佐々木

少しでも良いものができたらと思う。

福村

「環境」と「観光」を結びつけて、地域産業を掘り起こして、来年度につなげていきたい。

4. 委員長及び副委員長の互選について

- ・委員長は中島委員、副委員長は大迫委員に決定。

5. 経過報告

福村

(採択事業の説明)

吉田

(本事業の説明)

6. 協議

(1) 調査方針の確認及び全体スケジュールについて

吉田

(説明)

(2) スモールビジネスの考え方と形成手法について

中島

ニセコ型と言っても、内容は北海道型と同じになる。ことさらにニセコ型とは言えない。

工藤

ややもすれば自然環境ならば北海道型。ニセコ型にするならば、まずは地域を知ること。誰もやっていないことをすることがスモールビジネス。今のニセコにはないものをどうつくるのが問題。とりたて野菜を畑で料理するなどいいのでは。

木下

ニセコのリゾート性、ちょっと工夫したら高付加価値、高ビジネスになるものが、ニセコ型になるのでは。ニセコにはすでに整った環境がある。そのリゾート性を加えることでニセコ型になるのでは。大自然だけならば、道東には及ばない。

エヴァ

料理や宿泊もスモールビジネスの定義に入れては。ペンションならば、オーガニックなど自然の料理を提供するなど。

中島

小さいビジネスがスモールビジネスではない。

吉田

地域に根ざした、誰でもできる、ということ。

中島

新しい発見型ビジネスができれば、ステップアップになるのでは。「資源発見」ができれば。

木下

そういう風なやり方だったら俺にもできるのではという「気づき」がないといけない。新たな発見だけでなく、既存のものを組み合わせるのも良いのでは。

大迫

有島武郎の農場の考え方は、個人的には興味がある。道内の他にはない。

中島

モニターはどのぐらいの人数か？

吉田

40人くらい。

中島

事業者は、売り手側の目線にどうしてもなる。参加者の声を聞いて、顧客目線で考える。そうすると、ビジネスが生まれてくるかもしれない。

工藤

客と接すると、こういう物が食べたい、などの声が聞こえてくる。

中島

二セコにこんなものがあったらいいなあという声が聞けたらいいのでは。

工藤

市場に下ろさず、その場で食べてもらうということを広げてゆけないか。新しいビジネスにつながる。二セコに来る人は、漠然と来ているのでは。他と変わらないなあと思われぬ、戦略的な取り組みを。

二セコには、いろいろな移住者がいる。住民の3割を占める。これも地域性。こういう地域性も使うなど。「あの人に会いたいね」「食べ物も美味しいね」と思われるようになる。

福村

同じ川下りでも、する人の持ち味が出る。二セコにしかないものではなく、「二セコでしかできないもの」を。副業として、人に教えてあげようかなというものをビジネス化にならないか。そういうことをすぐにできる、サポート体制ができればと考えている。

ペンションやレストランの人が持っている特殊能力をビジネスにしていきたいとは、（当人達は）思っていないのだろうか。

中島

あくまでもセールスツール。ゴルフがうまい人は、客と一緒にまわるけれど、ペンションのセールスツール。

福村

釣りが好きな人のところに、釣り好きが集まるのはそういうこと。

中島

それだけでは、飯は食えない。宿としての付加価値を高めるため。

湯めぐりパスはヒット商品だが、あれも、温泉には変わらないが、温泉をくっつけることによって、付加価値が生まれる。

吉田

それだけでは食べていけなくても、それぞれの生業で付加価値が高まる物でも良いのでは。ラフティングをやるのではなく、その人に会いたい、という人もいる。個人の魅力を上げる、ホスピタリティを高めることによって、リピート率が高まる。人という、キャラクターの魅力がキーワード。

中島

持続可能な観光になりうるのでは。

工藤

二セコをよく見てもらって、あなたならどういうツアーが良いと思うか、ということを探るツアーにしてみても。

吉田

モニターにはアンケート調査を行うので、その中で尋ねることができる。

(3) 環境型ニセコ旅育プログラム内容と実施概要について

吉田

(各プログラムの説明)

山本

内容としては、現在行われている内容の三手目くらいが良いのだろうが……。例えば、温泉でいえば、グリーンヒルとヒルトンに入ると美肌になるとか、加齢臭にいいとか、泉質が豊富な点を活かすなど。その前にフットパスを歩く、そこで話をしてもらおう、または、夜には地元の人が話をする機会を設けるなど。軽トラ市、地元のものを使った料理なども考えられないか。

地元でパンフェスをやりたい、という話もある。その他、釣りやゴルフなども。

木下

小田切農園さんなど、農家さんの畑のその場で加工して食べるなど。団子汁とおにぎりと、その場で収穫したものを食べるなど。

山本

小田切さん家のピザ釜は良い。

中島

一つ一つはいいが、情報発信できていない。個人経営が多いので。有機的に結びつけるのが大事なのでは。

吉田

PRを一元化することが必要だと思う。

エヴァ

スモールビジネスを集めて、特徴ごとにロゴマークを掲げてPRする。それらのメニューをお客さんが調べて、自分でプログラムをつくることもできるのでは。

千葉

商工観光課で、リスト化されているものはないか。

山本

リスト化することはできるが、ビジネス化されていないのが課題。

エヴァ

例えば、ヨーロッパでのウェブサイトでは、このホテルは自然エネルギーを使っているとか、このホテルはアウトドア体験プログラムがあるなどで、ポイントがついている。

中島

観光協会でも、目的型旅行が増えているが、「何を旅行で叶えたいのか」を調べることができて、予約ができるブッキングシステムを考えている。もうひとつは、今町内に28社アウトドアの会社があるが、共通のクーポンが使えるようにしたいと考えている。少しお得感があるチケットにすることを考えている。利用者の利便性とお得感が必要では。それにキャラクターとホスピタリティが加われば、ニセコ型になるのでは。場所がないときに、セゾンクラブ使わせてもらえるか。

得能

使える。

山本

森林の間伐作業などを観光に結びつけているところもある。(下川町)

大迫

グリーンジムというのが、イギリスにはある。フィットネスを森の中でという考え。

中島

野良仕事がフィットネスになる。

工藤

白樺の樹液とかを採って、それで何かを作るとか。貸別荘は間違いなくスモールビジネスになる。

(4) アンケート及びヒアリング内容と実施方法

木下

客と接点のあるフロントに、どういうことならば客に勧めたいか尋ねてみてはどうか。

工藤

一般の住民と、観光関係者ではアンケートは分けた方が良い。一般住民のニーズを聞いてみたい。

山本

世代交代かできていないところが多いが、若い人が戻ってきているところは設備投資をしている。年間150万人の観光客が来ていながら、市街地の規模は4,500人のまちの規模のまま。観光地の飲屋街ではない。

木下

体験事業者を対象としても良いのでは。

中島

ニセコで起業したいツアーでも良いのでは。アントレプレナー(起業家)ツアーのようなものがあれば。

工藤

移住者を対象にしては。

福村

どこまでが移住者か(見極めが難しい)。観光関連に勤めている人を対象としてはどうかと考えている。

千葉

事業者に協力してもらって、配布しては。

(5) 先進地視察について

- ・事務局で決める

(6) 今後の進め方について

7. その他

- ・9/26に観光協会と町で意見交換会を開催する。そこで、旅育のことについても聞きたいと考えている。

8. 閉会

(2) 第2回ニセコ町たびいく推進委員会会議概要

(平成24年12月3日 13:30～ ニセコ町役場2階 第二会議室にて)

1. 開会

福村

事務局の変更について(千葉課長から福村課長へ)

中島

事前に資料を手元に送っているが、一部変更したものがあるので差し替えとなる。今日はかなり具体的な内容で、本題に入っていく。

吉田

(資料の説明)

2. 報告 フードチェーン体感旅育プログラム実施報告について

福村

旅育ツアー1については、シェフの想いが強く、また、調理に使う器材不足もあり、時間が押した。

吉田

品数も多かった。

福村

堆肥センターのにおいについては、モニター募集を行う段階で、(においがあることを了承して頂く旨の)文言を入れておくべき。2回堆肥センターに寄ったことも、時間が押した原因になった。

中島

堆肥センターは、2回目の見学だけでもよかったかもしれない。

木下

2回目の最初の部分は、農家さんの敷地に積んでいるものを見るだけでよかったのでは。足の裏にくっつくことを気にしていた参加者がいた。足元への配慮もツアー造成では検討が必要。

福村

雨でぬかるんでいたこともあった。

3. 協議

(1) 事業の全体スケジュールについて

吉田

(資料の説明)

(2) 未来のニセコを体感する旅育プログラム(電気自動車を活用した旅育ツアー)の実施方法について

吉田

(資料の説明)

福村

有島記念館など、ドライブコースに掲載されているところは最低限、マップにも記載をする。
クーポン券は、綺羅乃湯で使えるようにできないか。

中島

1人10,000円ではなく、1台に10,000円であること、釣り銭は戻らないこと、を明記すべき。

大迫

赤丸がちょっと見えにくいので、もう少し目立って示した方が良い。星印にするなど。

福村

「地域振興券」と「クーポン券」、どちらの名称が良いか。

中島

エコに絡むような名称が良いのでは。

木下

(マップに使われている)「Nis-eco」クーポン券、でよいのでは。

福村

外国人は、受け入れないのか。

吉田

現時点では考えていない。ホームページで周知する際にも、日本語版でのみ、HPに掲載する。

木下

受付はどのようにするのか。

吉田

予約は事前予約とする。ヒルトンホテルでは、レンタカーの受付も行っているので、同じように対応してもらえる。保険は町でかけている。車体について、スペアが必要になった時には、レンタカーで借りてくる。

佐々木

一度EV車で走ってみたいといけない。雪道だと、雪秩父まで行って戻ってくるのは、難しいかもしれない。

(3) ゼロエミッションライフ旅育プログラム(環境を学ぶツアー)の実施方法について

吉田

来年の1月25日(金曜)~26日(土曜日)に実施を予定している。宿泊場所は、ニセコ夜話(やわ)を既に実施している「甘露の森」を予定している。野菜ソムリエの方に来てもらい、話をしてもらおう。ほうれん草の収穫はニセコ高校に依頼し、可能な範囲で実施する。越冬ジャガ堀り&試食は、木下委員に依頼する。

福村

アンケート票の価格設定を尋ねる設問だが、最高額が12,000円まで。実際のコストに合わせた価格の数値を入れておいた方が良いのでは。

木下

ほうれん草の収穫体験の価格設定が低すぎるのでは。

中島

(利益を確保するという)スモールビジネスの視点での価格設定を考えていかないといけない。

福村

夜話については、内容が重要。ツアーにあった内容にしないといけない。

中島

話の内容は事前に詰めておくことが必要。二セコ町内で誰の話がおもしろいのだろうか？

山本

議長の酪農の話はおもしろい（興味をひかれる）。聞き出し役を立てて、2人でやった方が話しやすいのでは。

小林

岩手の遠野で行われているような宿泊施設で語り部の話を聞けるようなプログラムが良いのでは。

(4) 事業者向けアンケート調査の実施について

吉田

300名の事業者に送付する。

木下

はじめの設問で、「旅育プログラムに関心を持っている」と回答してくれた方を1歩前につなげるようなことがあると良いのだが。

中島

「旅育プログラムに関心を持っている」と回答してくれた方に集まってもらうとか。

福村

集まる機会に参加しますか、という設問をつくって、連絡先を書いてもらうようにしてはどうか。観光協会に個人情報（連絡先）を伝えても良いか、など。

中島

事業者に聞くのはよいが、一般町民の方にもアンケートを送付できないか。

(5) 先進地視察の日程等について

吉田

来年の1月27日（日曜）から2月3日（日曜）までの間で、2泊3日の行程で実施を予定している。日程は今週中に決定する。場所については、北九州市と久留米市を予定している。北九州市では環境についての取り組み（スマートコミュニティ創造事業）に関連した施設等を視察し、久留米市ではまち旅博覧会のプログラムに実際に参加する予定。参加するプログラムについては、事務局で調整させてもらう。

4. その他

- ・ 次回の開催については、来年の2月15日（金曜日）あたりを予定する。

5. 閉会

(3) 第3回ニセコ町たびいく推進委員会会議概要

(平成25年2月18日(月) 13:30~ ニセコ町役場2階 議員控室にて)

1. 開会

福村

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。第3回たびいく推進会議を開催します。

中島

北九州市と久留米市に視察に行ってきた。収穫はあったが、ニセコで進めるためには相当工夫が必要だと感じた。久留米のような歴史のあるところとはちょっと違う部分もあったので、プレイヤーと推進体制をどうジョイントしていくか、事前に事務局と打ち合わせをしている。ニセコで実施するには工夫や是正が必要と感じた。今回は視察での感想をまとめ直してもらったので、それらをもとに話をしていきたい。

吉田

(追加の資料の案内)

2. 報告・協議

(1) たびいくプログラムの実証実験モニターツアー報告について

吉田

(「環境(ゼロエミッションライフ)を学ぶツアー」「電気自動車を活用した旅育ツアー」の実施結果を報告)

(2) 先進地視察の報告について

吉田

(先進地視察の結果を報告)

中島

北九州のカーシェアリング、久留米市のまち旅博覧会の順番で視察した。A3判の資料の中に視察に参加したメンバーの表記と、それに関連する住民アンケートの内容も入っている。アウトドアを体験する町のイメージだと思われがちだが、旅育に対するニーズもあり、学ぶ体験や自己実現ができるようになればという意見が印象的だった。プレイヤーがいると、整うのではないか。

(3) 事業者向けアンケート調査の速報

中島

プレイヤーとしてどういうことができるかできないかはご本人の意図と違うレベルのものの見方、客観的に見るということもどこかの過程で経ていく必要がある。町内に事業はしてやっていないけれども、一定量知識や技術などのスキルを持っている人は、移住者の方も昔から住んでいる方もいると思う。一定量のポテンシャルはある。

大迫

スキルがある人のプログラムと、環境教育をどうからめるかについては、北九州市や久留米市で行われているような、エネルギーや自然などの狭い意味での環境だけではなく、人の周りにある（広義の）環境として捉えて、人が紡いできたものを物語として提供する、というプログラムができるのでは。それがニセコらしさにつながっていくのでは。あまり、エネルギーや自然環境にこだわりすぎなくてもいいのではないかと考えた。そうすれば、いろいろな素材が出てくるのでは。

中島

（第2回のモニターツアーに協力頂いた、野菜ソムリエの）越野さんは、アンヌプリでペンションをされていたが今は引退されている。ブランクがあるからどうかな、と言われていたが、結果を聞くと、教えた人が教えられたという感じになったのでは。このように、自信がないと言っている人でも、背中を押すことで、弾みがついて2回目、3回目のステップに進む人もいるのではないか。（農家の）佐藤さんの話は聞くことができなかったが、「俺の話つまんないだろ〜」という謙虚な方がニセコに多い。概して農家の方は朴訥な方が多いが、真摯に話していただける内容を聞けば、ためになる。こういった素地がニセコにあるということで整理していくが、これがロードマップになるのかと思う。

大迫

事業者アンケートに連絡先を記載してくれた方は、自分がプログラムを作る側の方ばかりか。

吉田

そうではない。サポートしたい人など、たびいく事業に関して連絡を下さいという方をすべて含めて24名。

エヴァ

連絡先を書いてくれた方への説明会とか、意見交換会を企画する予定は。

吉田

その点については、今後の体制をこの先どういう風に進めていくのか、この後みなさんにお尋ねして、委員の皆さんの意見を基にロードマップとしてまとめて行きたい。

エヴァ

みんなが一堂に集まれば意見も聞きやすいし、いろいろな意見も出るのでは。

（4）報告書（案）について検討項目

中島

プレイヤーの方のニーズは夏場が多い。夏場に行うのであれば4月から準備を進める必要があり、間近である。どのような工程としていくのか。アンケートでは関心がないと言っていた人ももう一回話をすると違うアイデアが出てくるかもしれない。紙のアンケートだけでない、ステップを踏んで行けたらと思っている。

<コンセプト、スモールビジネスについて>

工藤

コンセプトは、ビジネス化するかどうかでプログラムのつくりは違ってくる。モニターツアーは、それはそれとして、果たしてこれだけで集客できるのかということがポイントだと思う。もっと環境教育をいろいろなジャンルから取り込んで、特に都会から来る人に喜んでもらえる人を商品化しては。いろいろ盛り込んでみて、可能な商品をつくるのが良いのでは。たぶん、ニセコ高校のプログラムだけでは実際に多くの集客するのは難しいのでは。

初めのうちは無償でも「感激が伴う」ということがあるかもしれないが、長続きしない。それは対価がないから。魅力あるものを提供して対価を得て、さらに自分が満足することがベスト。そのような環境を作らないと長続きしない。はじめは補助金をもらっていても、いつまでも続くものではない。最終的には自立していく仕組みを行かない。そこまで検討していかないと上手く行かない。

中島

時間を提供するのだから、相応の対価が得られないと。感激も時間が経てば・・・という部分の話だと思います。

エヴァ

一般的に、全国の体験プログラムはとても似通っている。ニセコでやるならばニセコとしての特徴を入れるべき。観光調査を見れば、ニセコに来る理由として、スキー、温泉、きれいな景色などがある。これらを組み合わせてツアーをつくってみるとか。温泉ソムリエに温泉の話聞いて温泉に入るとか、体験終わったら温泉に入るとか、スノーシューで木の種類を学ぶとか。ニセコらしいプログラムをつくって欲しい。久留米まち旅は楽しかったが、久留米らしさはあまり感じられなかった。ただ人と話して直接交流できたのは良かった。体験しながらやりとりした、パーソナルな部分は印象に残った。

工藤

今年の冬は（ニセコに）東南アジアからかなりの観光客が来ている。これらの人たちは何をしているかという、雪に親しむようなことをしている、ただ雪を触ったり、食べたり以外に、雪をアレンジメントしたものを作ったりしている。ニセコは豪雪地帯だからこそできるニセコならではのものだと思う。

よそから来る人は、魅力あるものには対価を払うことに何とも思わない。面白いと感じるものをつくれれば多少お金を払ってもいいと思われる。そのようなニーズに応えるものを作ればと思う。料理ならばじゅうごばも作っているが、例えば豆腐とか。昔、豆腐は家々で作っていた。簡単に作ることができる。作りたては間違いなく美味しい。ここで採れた大豆を使うなど高付加価値の面白い商品をつくる必要がある。

吉田

久留米では、プログラムは有料とするというルールをつくっていた。ニセコではどうするか。ルールをつくるべきなのか。

工藤

無料有料以前に、すでにニセコ町では有料でアクティビティプログラムを提供している事業ができています。一方は有料、一方は無料だと問題になる。あくまでも事業者と併設して有料化するべき。その代わりに、プログラムは事務局等を設けて事業を選定すべき。久留米もふるいにかけていた。しかし、既存の事業者があるので、無視できない。そばうち、アイス、ジャムづくりなど既にある。リーフづくりや草木染め、笹の葉で和紙づくりとかもやっていた。そういう事業者がいる。きちっとスタートラインにつくには当然有料にすべき。

木下

既にプロとして事業をしている人と、久留米みたいに一般の方がいる。専門の事業者の観点で見ると、いろいろなプログラムがあるがだいぶ固定化されてきている。さらに付加価値を高める必要性が高まってくると思っている。そういった時に、プロ同士で連携するのか、一般の方々とマッチングするのか。一般の方は、ノウハウがなくては高い収入も得られない。そんな簡単なものではない。

せっかくアンケートで80名中24名の方、この中にはプロの方も入っていると思うが、連絡先を書いてくれているので、まず前に一歩進められることが大事。環境にこだわるのではなく、ニセコエリア自体が環境教育の町なのだから。こじつけでも良いからプログラムをつくって、進めてみてはどうか。自分も有償にすべきと思っている。金額の高い低いはあると思うが、何らかのハンドリングはするとして、まずはやってみたい人の背中を押すことが必要。

工藤

有料だと責任が伴う。お金はいらぬ自分が好きだからではなく、お金を払っても価値があるものにすること。結果は受け手が判断することだが、参加者が判断すること。無料でこの程度と思うか、お金を払っても良かったと満足するか、後々のまちのことを考えると続かないので有料にしておくべき。

大迫

お金をもらうとなると、プレイヤーもある程度お金をもらう覚悟が生まれる。それを大前提とするべき。ただ、スモールビジネスとして成り立たせるために利益をどうするのか、よく言われる「4P（製品（Product）、価格（Price）、チャネル（Place）、プロモーション（Promotion）」を成り立たせることを考えるのは、ハードルが高いと思う。現実的にやってゆけるか。久留米まち旅は事務局がかなりサポートしている。

スモールビジネスを立ち上げることが目的なのか、クラスターをつくるのが目的なのか。ハードルをクリアさせる仕組みが必要では。有償にはまったく反対はない。

中島

エヴァさんの言う、ニセコらしさとは。

エヴァ

ニセコは観光地。人が来たいと思われている町。来たい思う理由を組み合わせるプログラムを考えるべき。人はニセコでお金を払っているし、ニセコのことよく知られている。なぜ、お金を払うのか。ニセコはなぜ世界的に知られているかを調べて、その魅力をプログラムで生かすべき。

中島

単品で環境教育を考えても、なかなか取っ付きにくく相応のお金は動かない。北九州市もカーシェアリングはなかなか進んでいない。みんな自家用車を手放さない。やはり環境は大事であるが自分の利便性を優先する。環境を無視することはできないが行動に踏み切るとは難しい。そういうところは似ているなと思った。プレイヤーはお金をもらうからにはプロフェッショナルであるし、ブラッシュアップしていく。環境という言葉在前面に出すのも良いが、プログラムに参加することで環境を「学ぶ」ことを仕組んでいくプログラムにしていくが必要。その方が参加する人達になってみれば受けやすい。この間の越冬ジャガイモ収穫も、その後にももちやバターづくり、イグルー体験などの付加価値をつけているから魅力がある。楽しみながら、それに学びが入っている。

工藤

環境にちなんだものが何かしら入っている方が良い。例えば、ソーラー発電設備を使ってイモをふかしてみようとか。みんなしていないと思うけど、実際にはできる。実際やると、太陽熱の力に驚き、感動する。そのような「環境」と「遊び心」を組み合わせると、興味をそそるのでは。難しいけど知恵を出し合って情報を集めれば何とかなる。どうしても環境ということ（地域負荷を与えない）施設などハードなものをイメージするが、身近に自然エネルギーって

ものはこういうものだ、ということも見せられる。野菜も水耕栽培にするとか。できるだけ、そういう形にした方が良いと思う。

福村

環境教育といっても広く、生活環境も自然環境もエネルギーもある。たまたま今回は環境施設があったからモデル的に見学してもらったが、それだけを目的としてプログラム化しようという話ではない。これまでニセコは、どちらかという自然環境を中心としたアウトドア体験が主流であったが、それだけではないでしょというところが発想。事業者さんが持っているメニューはいろいろあると思うが、地域資源はいろいろあるのでビジネス化や集客するツールにならないかというのがこの事業の趣旨。

中島

連絡先を記載してくれた24名の技や巧だけにこだわらず、エヴァさんが言ったように、多くの人を訪れさせる魅力を環境と組み合わせてみるとか。工藤さんが言われるような新たな発想で考えると。意見交換の中で、時流に合った、先取りした内容を考えていけばいいのではないか。

山本

メニューはたくさんあった方がいい。選択肢が沢山あるほうがよいし、できれば地域に根ざしたものだと思し、ただ「呑み仲間がいます！」というようなプログラムのある幅があっても良いのでは。

福村

実際に久留米にはある。若旦那と飲み屋を回るみたいなの。

中島

造り酒屋の若旦那と行くというメニューがある。一応、「〇〇と行く～」と決まっている。

エヴァ

オーストリアで人気なのは、農家へのホームステイ。都会に住む子ども連れの家族が田舎の農家に泊まって、動物とふれあったりするので大人気。今でもファミリーファーム、観光農園がある。

中島

すでにニセコにもファームインやっているところがある。

木下

知っているところだと、小田切さん、大道さんのところは泊めている。

中島

環境を全面にいうよりも連携するほうが魅力が出るということ。プログラムは、責任感や品質、満足度に直結することを考えると有償とする、それをいくらにするかは、どこかでジャッジする。旅育の目的である「旅で育む」という基本線から外れないように。ニセコは、これまでどちらかといえばアクティビティだけだったところから、年代や多目的型旅行に対応することで幅広い展開をめざすということ。

<クラスターの図案について>

大迫

プレイヤーが主役ではあるが、その中心、核があった方がいい。現実的に誰が引っ張っていくかが分かるように。

工藤

コーディネーター、企画や事務局を中心にする。

中島

久留米の場合、事務局であるNPOの方がキーパーソンとなっている印象がある。相当バックアップしているとみんな認識している。そのようなコーディネーターが重要となる。

福村

クラスターだから、ブドウの房のように枝があって実ができるので、枝が重要。そういうイメージで示した方が良い。あと、あまり環境を強調しなくても良いのでは。

中島

ニセコらしさ楽しく学んで付加価値がある。この図は、札幌でも小樽でもどこの町でも適用すると思う。しかし、ニセコは、農家があり農村があり多種多様な「アクティビティ」が入っているところは特有。そこは他の町村にあるものではない。環境が学べる。ということ気付きがあればと思う。そのようなコンテンツを加味すればよいかと思う。

<推進体制について>

大迫

久留米は新幹線開通などもあり、かなり行政が事務局にはっぱをかけていた。ニセコとはバックグラウンドは違うのかなと思う。エヴァさんのいうように、みんなで一堂に集まって研究会を立ち上げて話し合いをしてみてもどうか。

中島

中心的な運営組織は必要と思う。この委員会がそういう形の中で練り上げていくことが必要なのではと思っている。プレイヤー、サポーターもそれぞれが相互に勉強して成長していかなければならない。久留米の事務局のような核にある人材がいるのか、というと現実には難しい。一足跳びにはならない。この委員会が引き続き中心となって、プレイヤー、サポーター、22名のメンバーや我々など育てていく切磋琢磨していくことが必要なのでは。

大迫

視察に言っていない方もいるので説明しておくが、（久留米で事務局として活躍している）浜砂さんは、はじめから特別な人ではなかった。専業主婦で、「東京の会議に参加してくれ」と言われた時には行き方が分からず旦那さんがついて行ったような方。元々から特別な方ではない。視察に行っていない方は、すごい方を想像しているかもしれないので、お伝えしておく。

中島

彼女も久留米まち旅で生まれたのだと思う。基礎の基礎から作っていかないとならないのならば気運も含めて、この委員会が引っ張っていかなければならないと思う。一足跳びにプレイヤーや委員会を立ち上げることはないので、議論をしていく中で、そういう方向に、一枚岩になってくるのでは。

工藤

現実論として、久留米と同様にしていくのは難しい。参考にしながら、実行委員会の中で長をどうするのか、どう検討委員会をつくるのかということところまでは関わってから、それができた時点で、この委員会は解散すればよいのでは。

木下

最終的な姿として想定できることが二つ考えられる。「まち旅みたいにお題を持ってプログラムの集合体にする」のか「個々が、何らかの旅育としての条件を満たしてプログラムを各々

回していく」のか。それで推進体制は変わってくる。どちらにしても、声かけ、背中押しをしていくことが必要なのでは。

山本

これまで3年間やってきた「ニセコフェスティバル」は、まさに「オンパク」からひっぱりだてきたメニューをやろうとした。しかし、押しが弱くてPRができず集客が少なかった。今まであるようなメニューばかりになったことから、動かなかった。プログラム出しを本気でやってみることは必要なのでは。ハロウィンは割と人が集まって面白い感じが出ているが、もともとのオンパクのプログラムは広がらなかった。

中島

我々委員会が、何らかの発火点になるのでは。プログラムを磨き上げる体制を整えなければならぬと考えると、時間のかかる話であるし、丸投げするのではなく、この委員会がまず起爆剤となることになるのでは。観光協会が事務局をとというのが分かりやすいとは思いますが、今のスタッフ体制で俯瞰した物の見方や、新しい発想、きめ細かなサポート、相場観を考えること、などができるかと考えるとどうかなと思う。むしろ、NPOとか利益を追求しない方式の方が望ましいのではと思う。もう少し議論をして煮詰めるにも、最初はこの委員会がエンジン役にならなければならないのでは。

工藤

今日はここまでで、だれがという議論は、次回の懸案事項ということで話してはどうか。

3. その他

- ・第4回推進委員会は、3月11日（月曜日）を予定する。
- ・次回は完成直前の報告書をチェックいただく内容となるが、必要ならば、事前に一度案を見てもらって意見をもらうことも考える。

4. 閉会

(4) 第4回ニセコ町たびいく推進委員会会議概要

(平成25年3月11日(月) 13:30~15:00 ニセコ町民センター2階 研修室5にて)

1. 開会

福村

今回第4回目となり、お手元の報告書の最終案を確認していただき、報告書とさせていただきたいという趣旨で開催している。

中島

この会議も終盤にさしかかってきた。先日事前に資料の事前打ち合わせをして、修正するところは修正し、みなさんに分かりやすいかたちになっているはずだが、疑問や問題点があれば提議してもらい。事前にみなさんに資料が届いていると思う。

吉田

(本日追加の「資料編」の確認。報告書案の2章と3章について説明)

2. 報告・協議

(1) 最終報告書(案)の内容審議について

中島

実際問題は、たびいくのコンセプトをしっかりと共通認識として持って、久留米市ではない、ニセコ町という違いがあるところでどうやってこの事業を定着していくか、というのが今日の実施面あたって検討するところ。このままテキスト通りいけば、ニセコ町にたびいくという、ひとつの新しいビジネスモデルができるということになるので、現実には即したご意見を頂ければと思う。特に、視察をした久留米市では、そこに住んでいる方がゲスト、お客さま、になっているが、ニセコ町は人口5,000人切るところで、地元の人もあるが、外貨獲得という観点から町外、道内、道外、海外、という視点でお客を考えていく必要がある。そこが久留米市と違うところ。そう考えていくと、実際に類するケースは既にやっている。すでに体験型アウトドアビジネスをやっている方は、個人にしても組織にしてもいっぱいある。尻別川を使っている事業者だけで6社ある。それに陸を含めると相当数の個人・組織の方がすでに生産活動をしている。そこを配慮しながら、しかも有機的に結びつけていくかというところで、その原動力になる組織も必要だろうし、オペレーションやコントロールなど目利き役になるところの部分も必要なのではないかと思う。ニセコ町が特殊ではないと思うが、この地に魅力を感じて訪れてくれる人が一人でも多くなるようなものとして、最終提案として意見があるかが、今日のメインテーマになると思う。

工藤

プログラムだが、ニセコの個性がないと魅力を感じないと思う。久留米市でのしめ縄作りだって、手法を変えてやっているところはある。やる以上は、ここにしかないものを抽出して共通化してやっていかないと、たぶん魅力にはつなげていかないのでは。

目につく、やりやすいものは既にアウトドアやアクティビティの業者がやっている。そこでやっていないもの、なおかつ魅力を感じるものを、研究会で考えていくべきでは。そうしないと、これをやってもあまりお客さんが参加しない。

もうひとつ感じていることは、最近の観光客はその地域と触れ合うということを重視して行動しているように見える。食べ物であったり、人であったり、体験であったりするが、その部分を徹底的に考えて、仕掛けていくべきだと思う。例えば、町内にいる面白い、魅力ある人たちと話をしたい、考えを聞いてみたいという人がいるかもしれない。そういうところを取り入れたものがニセコらしさというのでは。ただ住民がやりたいというものではなく、掘り下げて、プラスアルファを考えてやっていった方が質の高いものができる。そういう点だけ気になっている。

吉田

報告書（案）80ページの下の部分にプログラムづくりについて記載があるが、この部分に「個性的な人との出会い」なども取り込んでいくということが良いか。

工藤

ニセコ町の地域性、例えば久留米市と比較すると、小さい町でありながら約3割は移住者。これは他の地域ではありえない。その良さとして考えると、面白い人間がいることがある。もうひとつ、よく（地域との）「接点がほしい」と言われる。いろいろな人が来ている町だからこそ、そう思われるのでは。それもよそから来る人（観光客）が求めていることではないか。

中島

そういう点では、オペレーションする組織がとても大事。農業者の佐藤さんも「俺の話なんか聞いてもしょうがないだろ」って言うが、参加してお客さんはとても素晴らしかったと言っていた。

工藤

農家の人はそういう方が多い。

中島

売り手と買い手、投げ手と受け手がずいぶん違う。売っている人が「これはすごいプログラムだ」というかもしれないが、お客さんから見たらどこでもあると思われるものもある。そういう価値の判断、最終的には顧客目線だが、佐藤さんが売り手として「俺の話なんか」と思っているところをどうやって拾い上げていくか。

工藤

佐藤さんは農業者。メロンを作っていて、彼は彼なりに（メロンづくりに）自負心はあると思う。一般の人は、メロンは食べたら美味しいということは分かるが、どうやってなっているかは知らない。特に都会の人は。そういうところ（メロンの生産現場）を見せると、メロンに理解を示すし、どうしてこんな美味しいものが作れるのか話を聞いてみたいと思う。いろいろな工夫をして育てていると思う。そういう話を聞いたら面白いではないか。

中島

眠っている素材をどうピックアップしていくのが大事。

吉田

実際に、（モニターツアー参加者で）佐藤さんのゆり根を買いたい、という人がいた。

中島

あの興味深い話をしてくれた、佐藤さんのゆり根を買いたい、ということ。それは大きい。

吉田

十分期待できるし、経済効果として捉えられる。

中島

久留米の田中さんは20人に1人しか、お米を買わないとのことだが、久留米とニセコの違いとして、久留米に住んでいる人が来て買わないというリスクと、ニセコ町に来て買わないというリスクは違う。プレイヤーの副次効果としては、ニセコはもっと高いのではないか。事業もくろみとして、売上げとして今後の要素になるのでは。

吉田

99ページ（間接経済効果の部分）にその内容を記載し示している。

工藤

もっと分かりやすく書いた方が良い。うちの町長はことあるごとに基幹産業は農業だと言うが観光も大事な産業。確かに農業では畑作が半分ぐらいあって、そこでいろいろな野菜をつくっている。ここを通して、一般消費者とセットを作る仕組みをつくると、（消費が拡大するというような）可能性もあるのでは。ボランティアに協力してもらって農業者の話を聞くというツアーをつくって、消費者に手伝わせる、まさに国が目指している6次産業化に近いようなことがそこで生まれる可能性がある。生産者の話を聞くことによって、消費者の購買意欲が高まるということを示して、そういうところから、ニセコの農産物と消費者のつながりが拡大するという可能性がある、ということをも明記した方が良い。

中島

観光によって農業が活性化する、副次効果もある、ということ。

木下

ちょっと気になったところは、プレイヤーの事業化モデルの材料費等の想定が5割と8割は高い。料理屋さんでも3割というから。多くて3割。3割と5割で示してはどうか。10%と20%でも良いと思っている。

中島

外部のスタッフのコストとしてはどうか。

工藤

プログラムに多くの人に参加すれば問題ない。

吉田

では、数字の差が分かるように、20%と50%にする。

木下

報告書としては随時確認をしていたのでこれで良いと思うが、個人的に思うのは、まとまって動かないとたびいくプログラムとは言わないのかということ、そうでもないような気がする。あなたと私とで何かやりましょう、それがたびいくプログラムという、そういうかたまりというものもあるのではと思う。何か組織を立ち上げてまわさなければならないのか。個人個人でつながりながら進めていくというのも、一つの体系としてあるのではと思うが、報告書自体はこれで良いと思う。

吉田

個人的な意見だが、個人個人のつながりだと、体験業者だけでやっている現状と変わらないと思うので、ある程度の固まりができたとしても、それが大まかに統一した内容になるよう、認証するチームとか、ブラッシュアップしてあげるチームとか、目利きをしてあげるような人とか、ゆるく統括しているものは必要なのではと思う。

中島

確かに、なにも大きくする必要はないと思う。そもそもコミュニティビジネスという発想だから小さくていいと思う。ただ、誰がどこで質をあげていく、磨きあげをしていくということこ

ろが、どこかで必要なのかなと思う。それが体系的に動いていて、ニセコ町の全体的なプログラムに見るといのが良いのでは。質を上げていくのは、どこかで良くないところを変えていく是正機関というか、ともに直していくところが必要ではと思う。

工藤

たびいくをチェックするところがあって認定された人がやるとなると、不利だという人たちをどう扱うか。実際にあると思う。例えば釣りのガイドも、知らないうちにいろいろな人がやってきて行っている。町全体でたびいくとしてやっていく際に、その枠内に入っている人たちはいいが、入っていない人をどう扱うか。一応認識していた方が良い。だんだんいろいろな人が入ってくる地域なので。どう整理するか。

中島

前提としては、たびいく事業のフレームの中に入れてもらうということになる。現状は、名前が分からない人が来て事業を行っている。そして、その人に会いたいというお客さんも来ている。

工藤

入ってもらって登録制度のようになれば良いと思うが。特に近年は（知らない人が来て事業しているケースが）増えている。（その方を）知っているかと聞かれるが知らない。

吉田

たびいくという枠組みに魅力を感じてもらえる人に入ってもらって、自分たちは（枠に入らなくて別に）いい、という人はそのままということになるかと思う。ただ、課題として、お互い顔が見えない人たちが集まって、それぞれがばらばらにやっているという状態は良くないのかなと思った。

中島

顧客から見れば、どこの誰にガイドをお願いするという権利があり、ガイド側も得てしてお客様を選択する。自分を気に入ってくれた人だけガイドするという個性的な人が多い。また、そういう人だからこそ支持される面もある。

山本

しゃちほこばって組織をつくって、プログラムとかツアーとかつくってやるのはどうかと思う。どっちが先なのかとなれば、アウトドア事業者がバックカントリーツアーをやっていて、確かに問題にはなっていることもある。だから束ねて規制をかけなければならないとか、ルールづくりをしなければならぬということはあるが、はなから、こんなビジネスになるということも分かっていた訳ではなく、どこがどう育っていくかは分からない。今回のたびいくのひとつのプログラムとして、行政機関の施設での学びを中心にツアーを作ってきたが、これがどう化けるのか化けないのかというあたりもあまり分からない。堆肥センターなどの一連のプログラムができあがっていて、それをJTBがツアーとして売ったときに、売れるのかどうか、ということも含めて、いろいろなことをやってみて、うまくいったらやっていくという流れが自然なのかなと思う。

報告書はこれで良いと思うが、こんなに大きくどかっといくか。公共施設に関わるプログラムにしても、小さくちょこちょこやり始めてみるとか。これがラフティングと肩を並べるようなコンテンツになるのかも今は分からないので、小さく産んで、という方が良いのかなと思う。

中島

誰かがランドデザインして、役場の行政あたりが主導して、ここにアウトドアが振興した訳ではなく、それぞれの発想とアイデアのもとに可能性を求めてニセコに来ていろいろな事業

を始めて、その集積が結果として、ニセコのアウトドアスポーツが観光のコンテンツとしてできあがったという経緯がある。強制的に何かをどうかするというのではないのかもしれないけれど、そういった自由度と発想とポテンシャルを考えたら、ここでぐいっとねじ曲げてやるのはいかなものかなということはある。

山本

ニセコのいろいろなコンテンツを見ると、ビュープラザ（直売会）も、はなからあのシステムができあがっていて、参加者 60 名、売上げが 2 億ですよ、とやってやり始めた訳ではない。初めは（代金を入れる）缶缶を置くところからで、だんだん広がっていった。そういう形が（ニセコの）自然のビジネスの成り立ちではないかという気がする。公共事業として課題解決のために効果に関わらずやるということはあるが。

吉田

進め方に関しては実際に動かしていくときには、ちっちゃく進めていくということもあると思う。確認として、8 ページにたびいく調査を行うにあたって観光の課題を示している。今回の事業は、アウトドアに並ぶ別のプログラムを生み出すことが目的ではなく、ここにあるニセコ観光の課題解決をしたいということで、まちづくりの一環と考えている。アウトドアも「たびいく」という取組の一部という考え。町民の「人」の部分を押し出していくことで、町民がもっとまちづくりに関わっていけるきっかけとなることを目的としている。

工藤

ねらいとしては、地域の人たちの観光に対する認識が乏しい、それを喚起する意味合いが含まれているのではと思う。

吉田

佐藤さんは、今回のモニターツアーでゆり根のことを話したことが自分のところにも効果がある（ゆり根が売れる）ということを感じたかもしれない。町民がたびいくをきっかけに分かってもらえるようなものになればいいのかなと、それがたびいくプログラムがきっかけになると思う。

中島

実際に木下さんは、いくつかのメニューをくっつけてプログラムをつくっている。そういう人がいないと単品切り売りにみたいになってくる。それでは（魅力ある）商品にはならない。ニセコに来て 9 年目だが、1980 年代の高度成長期の頃スキーブームが起こって、その後にニセコが知られているようなアクティビティが自発的にどんどんできてきた。しかし、低成長で高齢化が進み、スキーヤーの数も減ってきたという消費者背景ががらっと変わってきている中で、単品切り売りでは、お客さん目線では、コンテンツが見えてこないのでは。

自己欲求や自己実現から「学び」が旅行の一つの柱になってきているとすれば、アクティビティを通して人との接点を持ちたい、あの人から感動を受けたいとか、コミュニケーションしたいとかというニーズは確かに感じる。顧客目線で見ると、ラフティングで若い人たちが行くところ、というのが一般の相場になっているが、実はもっと奥深い、学びやのまちでもあるんだよ、というところがあれば、もうちょっと体系づけられて連携して情報を発信し、顧客目線で見やすいようなところで何を切り取るか、と考えられるが今、ちょうど過渡期でもある。外国人の客は増えているが、純粋に国内のお客様だけ当てはめてみると、すごく大きな変換点にきている。の駅のビュープラザに来ていた人のように「わたらの行くところはニセコにはないな」と言って町外にいつてしまう人が実際にいる。こういう人たちをどうキャッチアップしていくか。魅力的なキャラクターがいて、そういう人に会ってもらって、時間を共有して、また

来てもらいたい。ひとつの接点があれば大きなエネルギーになると思う。ラフティングもカヌーも、あの人に会って話をしたいから来る、というふうにするべきだと指導している。リピーターの戦略はまさに人。そうするとそれを体系づけないと発信できないかなと思う。個の発信では限界にきている。

エヴァ

外国人対応は難しい。言葉の壁とか、英語が怖い人が多いとか。

中島

ファームインに人気があるのはどういうところだと思うのか。

エヴァ

都会の人は田舎の体験をしたい。特に親子は。親子で農家の家に泊まって、田舎の生活の体験をするところ。あと、そのコーディネーターづくりはいつからやっていくのか。

中島

意見はいろいろあるので。どうやって進めていくのか、手法も含めて、これから考えていかなければならない。

大迫

この事業でめざしているのは、連携の図が示している部分であることが分かった。他の地域でも農商工連携ということは良く聞かすが、ニセコたびいくプログラムで目指していたところがここだったんだなということに改めて認識した。

中島

なかなかまとまりづらいのがニセコの特徴。一本化しづらい。俺がやりたいことをやるんだ、と言ってサラリーマン辞めてニセコに来たような人たちを、束にしていくことは難しい。違和感なくスムーズに枠に入ってきてもらうには時間がかかる。リゾートの先進地でもあるし、そういう歴史のあるニセコなので、いきなり首に縄をつけてということには、趣旨が良くても悪くても、拒絶反応を示しやすいのでは。ただ、これからは自由奔放にやっていくので良いのかどうかということはある。報告書の前段に書かれているニセコの観光課題を解決しないと、次のステップには行けないのでは。先ほど話したビュープラザで「わしら年寄りの行くところはないな」と言ってトイレだけ行って帰ってしまうという、それは一組の高齢者のカップルの言葉だが、これは相当数の意見を反映していると思う。たびいくが全部お年寄り向けであるとは思わないが、知の欲求というものをこれから少し充実させていく必要があるのではと思う。このあと具体的に進む場合、（たびいく事業の担当部署は）観光の方に移行するのか。

吉田

住民アンケートで連絡先を回答してくれた 24 人には、どう対応するのか。

中島

あまり間は置けない。報告書が納品されたら、一定の方向性をつくって実際にフィールドワークしていくには、あまり間髪置かないでやらないといけない。JT Bとしてはどう思うか。

吉田

実施ということでは何かしらのアクションを起こさないと熱は冷めていくと思う。我々の提案としては、まず研究会をやる必要があると思う。その中で、プログラムをやってみようかということになれば、我々は旅行会社としてモニターツアーやPRをやっていくのが良いのではと考える。ただ、集まらないと始まらないと考える。

中島

議論はこれで終わるが、やらないとしょうがない。何しに視察に行ったんだ、ということになる。役場内で具体論としてどういう展開をしていくのか詰めてもらいたい。フレームや大きさはともかく、第一歩を踏み出すということが良いのでは。最後に副委員長に締めてもらいたい。

大迫

自分も勉強になったし、もう少し議論を重ねたい。ニセコに対する観光のあり方をもう少し議論できたらと思った。非常に先の可能性を感じる会議であった。

3. その他

4. 閉会

4. ニセコ町たびいく推進委員会設置条例

平成24年6月25日

条例第23号

(設置)

第1条 地域振興策及び環境保全策の一環として、旅行を通じて環境等を学び、体験する旅育モデルの設定及び事業可能性を検討しながら、本町の環境施策と地域産業を有機的に結びつける地域産業連携型社会を創造するため、町長の諮問機関として、ニセコ町たびいく推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、町長の諮問に応じ、環境型ニセコ旅育モデルプログラムの開発等に関する事項を調査審議する。

(組織)

第3条 委員会は、委員7人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる各号の中から町長が委嘱する。

- (1) 観光全般に学識経験を有する者 1名
- (2) 環境又は観光事業に識見を有する者 3名以内
- (3) 公募による町民 2名以内
- (4) 商工観光課長

3 前項第3号の一般公募に応じた者が定数に満たなかった場合は、男女及び年齢構成を勘案し、町長の指名する者をもって不足定数を補うものとする。

4 委員の任期は、1年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任は妨げない。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員が互選する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の委員長は、会議の議長となる。

(オブザーバー)

第6条 委員会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、専門的な知識又は経験を有する者のうちから町長が委嘱する。

3 オブザーバーが委員会に参加し、助言又は協力を行う場合は、費用弁償を支給することができる。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は町長が別に定める。

附 則

この条例は、平成24年7月1日から施行する。

5. 各種アンケート票

(1) 地産地消の旅（自然エネルギーや自然環境から「食(農業)」を学ぶツアー）

「ニセコ地産地消の旅モニターツアー」参加者アンケート

本調査は地域振興策及び環境貢献策の一環として、より実践的な環境に配慮した旅育モデルの開発及び事業の具現化の可能性を探るために実施するアンケートです。お答え頂きました回答は全て統計データとしてのみ使用しますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

【調査実施主体】 ニセコ町
【調査受託】 株式会社JTB北海道 地域コンテンツ開発室
【旅行実施】 株式会社シーピーツアーズ

ご回答は当てはまる選択肢をチェックし、必要箇所については直接ご記入下さい。

■あなたのプロフィールについて

問1 性別・年齢	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 ()歳
問2 居住地	()市・町・村 ()区
問3 ご職業	<input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員・団体職員 <input type="checkbox"/> 会社役員 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> パート・アルバイト <input type="checkbox"/> 無職 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> その他()

■今回のツアーについて

問1 どなたと今回のツアーに来られましたか。(ひとつだけ)

友人・知人 夫婦 親子 兄弟・姉妹 一人 その他()

問2 今回のツアーを何で知りましたか。(いくつでも可)

モニターツアーのチラシ シーピーツアーズのホームページ 「BEST! from 北海道」のメールマガジン
家族・知人に聞いて その他()

問3 今回のツアー参加を決めるきっかけ(興味)を上位3つまで順番をつけて教えて下さい。
(□に上位のきっかけから1・2・3と書き入れてください)

ツアー内容全般に興味があった 値段が魅力的だった バスツアーは便利だから
ちょうど時間が空いていて ニセコ町堆肥センターの見学に興味があって
ニセコアグリファームでの収穫体験に興味があって
レストランプラティエーヴォ佐藤シェフによる料理教室に興味があって
ニセコビュープラザ(買物)に興味があって 家族・知人・友人に誘われて
その他()

問4 今回のツアーに参加した感想をお答え下さい。(ひとつだけ)

期待以上に楽しかった 楽しかった 普通 楽しなかった

問5 今後同様のツアーがあった場合に友人・知人にお薦めできますか、またその理由を教えてください。(ひとつだけ)

大変お薦めできる お薦めできる お薦めできない どちらとも言えない
【その理由】()

問6 今回のツアーを有料販売する場合、あなたでしたら、どの位の金額だったら参加しますか。(ひとつだけ)

3,000円 4,000円 5,000円 6,000円

問7 ニセコで行う「旅育プログラム」としてあなたが行ってみたいことを教えてください。(いくつでも)

越冬野菜の収穫・料理体験 温泉 と行くニセコ温泉めぐり(ニセコ町内には23源泉があります)
地中熱を活用したハウス栽培野菜の収穫・料理体験 ネイチャーガイドによるトレッキング
ニセコの森で癒される森林療法体験 ネイチャーガイドによる星空観察
野菜ソムリエに学ぶニセコの野菜教室 ニセコの草木でつくるアロマオイル教室
野の野草を摘みながらフラワーアレンジメント その他()

■ニセコ町地域への来訪歴について

問8 過去3年間でニセコ町管内を観光(食事・お買い物含む)で訪れたことはありますか。

1. ある<約()回>【→問9へ】 2. ない【→問10へ】

問9 (問8で「ある」と答えた方にお聞きます)どちらに何をしに行かれましたか。(記述式)

問10 (問8で「ない」と答えた方にお聞きます)未訪問の理由を教えてください。(いくつでも可)

ニセコ町に関する目新しい情報がなかったから ニセコ町よりも他に行きたいところがあったから
ニセコ町地域のことをよく知らなかったから ニセコ町に魅力を感じていなかったから
行くのに遠い・不便だと感じていたから 魅力的な旅行商品がなかったから
その他()

《ツアー全体やニセコ町についてご意見・感想などを自由にご記入ください》

◎ニセコのイメージは？

◎プラティーボ佐藤シェフへの感想

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

〔当アンケートに関するお問い合わせ先〕(株)JTB北海道 地域コンテンツ開発室担当:吉田 TEL:011-218-7171

(2) 「食と環境を美味しく学ぶツアー」(「環境(ゼロエミッションライフ)」を学ぶツアー)

「ニセコで環境を考える旅モニターツアー」参加者アンケート

このたびはモニターツアーにご参加いただきありがとうございました。今後、ニセコ町の資源を生かした観光プログラムを考えていくにあたって、感想やご意見をお聞かせください。頂いた回答は全て統計データとしてのみ使用させていただきます。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

【調査実施主体】ニセコ町 【調査受託】(株)JTB北海道 地域コンテンツ開発室 【旅行実施】(株)シービーツアーズ

ご回答は、あてはまる選択肢をチェックし、必要箇所については直接ご記入ください。

■あなたのプロフィールについて

性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
年齢	<input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代 <input type="checkbox"/> 80代以上
お住まい	()市・町・村 ()区
ご職業	<input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員・団体職員 <input type="checkbox"/> 会社役員 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> パート・アルバイト <input type="checkbox"/> 無職 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> その他()
ニセコ周辺の観光経験	<input type="checkbox"/> ニセコ周辺に来たのは、今回が初めて <input type="checkbox"/> このあたりに来たのは、今回で_____回目である (観光された場所:)

■今回のツアーについて

問1 どなたと今回のツアーに来られましたか。(ひとつだけ)

友人・知人 夫婦 親子 兄弟・姉妹 おひとりで参加 その他()

問2 今回のツアーを何で知りましたか。(いくつでも可)

モニターツアーのチラシ シービーツアーズのホームページ 新聞広告
「BEST! from 北海道」のメールマガジン
家族・知人に聞いて その他()

問3 今回のツアーに参加しようと決めたきっかけを、3つまで教えてください。(番号を記載してください)

1 番目→ () 2 番目→ () 3 番目→ ()

- ① ツアー内容全般に興味があった
- ② 値段が魅力的だった
- ③ バスツアーは便利だから
- ④ ちょうど時間が空いていた
- ⑤ 地熱ヒートポンプを利用した農業ハウスを見学してみたかった
- ⑥ 真冬のほうれん草の収穫体験に興味があつて
- ⑦ 地元農家さん、野菜ソムリエの夕暮れ話に興味があつて
- ⑧ 越冬ジャガ収穫・調理体験に興味があつて
- ⑨ 家族・知人・友人に誘われて
- ⑩ その他 ()

■個別のプログラムについて

問4 今回の3つのプログラムについて、参加した感想と、それぞれのプログラムを有料設定する場合、あなたが支払っても良いと思われる価格(帯)をお聞かせください。

今日の3つのプログラム	参加した感想 (1つ選択)	支払ってもよい価格(帯)
アイスクリーム作り体験	<input type="checkbox"/> 期待以上に楽しかった <input type="checkbox"/> 楽しかった <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 楽しなかった	()円ぐらいから ()円ぐらいまで
地熱ヒートポンプ利用による農業ハウス・真冬のほうれん草の収穫体験	<input type="checkbox"/> 期待以上に楽しかった <input type="checkbox"/> 楽しかった <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 楽しなかった	()円ぐらいから ()円ぐらいまで
地元農家さん、野菜ソムリエの夕暮れ話	<input type="checkbox"/> 期待以上に楽しかった <input type="checkbox"/> 楽しかった <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 楽しなかった	—
越冬ジャガ収穫・調理体験	<input type="checkbox"/> 期待以上に楽しかった <input type="checkbox"/> 楽しかった <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 楽しなかった	()円ぐらいから ()円ぐらいまで

問5 今回は宿泊ホテルにて「地元農家さん、野菜ソムリエの夕暮れ話」を行いました。あなたがホテルで聞いてみたい話またはプログラムを教えてください。

問6 ニセコで行う「旅育プログラム」としてあなたが行ってみたいことを教えてください。(いくつでも)

- 温泉ソムリエと行くニセコ温泉めぐり (町内に23の源泉があります)
 ネイチャーガイドによるトレッキング ニセコの森で癒される森林療法体験
 ネイチャーガイドによる星空観察 野菜ソムリエに学ぶニセコの野菜教室
 ニセコの草木でつくるアロマオイル教室 野の野草を摘みながらフラワーアレンジメント

問7 上記の他に、あったらいいなと思う内容がありましたら記載してください。(1つでも記入頂けると幸いです)

問8 あなたは、今回のツアーのほかに、ガイドや指導者と一緒に体験する観光(乗馬、釣り、登山、トレッキング、収穫、作品づくり、講座・教室・観察会への参加など)に参加したことがありますか。

- 参加したことがある 参加したことがない

問9 問8で「参加したことがある」と回答された方におたずねします。参加された中で、印象に残った観光がありましたら、内容を教えてください。

《ニセコ町についてのイメージと、ツアー全般へのご意見、ご感想などを自由にご記入ください》

◎ニセコのイメージについて

◎ツアー全般に対するご意見、ご感想

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

(3) ニセコ電気自動車の旅（電気自動車を活用したたびいくツアー）

「ニセコ電気自動車の旅」参加者アンケート

このたびはモニターツアーにご参加いただきありがとうございます。ニセコ町では、二酸化炭素の排出を抑制するための取り組みを進めており、今後、地域の資源を生かした観光プログラムを考えていくにあたって、電気自動車の活用を検討しています。電気自動車を実際に利用された感想やご意見などをお聞かせください。お答え頂きました回答は全て統計データとしてのみ使用しますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご回答は、あてはまる選択肢をチェックし、必要箇所については直接ご記入ください。

■あなたのプロフィールについて

性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
年齢	<input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代 <input type="checkbox"/> 80代以上
お住まい	()都・道・府・県 ()市・町・村 ()区
ご職業	<input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員・団体職員 <input type="checkbox"/> 会社役員 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> パート・アルバイト <input type="checkbox"/> 無職 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> その他()
ニセコ町までの直前の交通手段	※いくつかの交通手段を用いた方は、ニセコ町に来た時の最終的な交通手段1つを選択してください。 <input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> レンタカー <input type="checkbox"/> JR(鉄道) <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> その他()
北海道での観光経験	<input type="checkbox"/> 北海道に来たのは、今回が初めてである <input type="checkbox"/> ニセコ周辺に来たのは、今回が初めて <input type="checkbox"/> このあたり(ニセコ町周辺)に来たのは、今回で 回目である (観光された場所:)

■今回のツアーについて

問1 どなたと今回のツアーに参加しましたか。(ひとつだけ)

友人・知人 夫婦 親子 兄弟・姉妹 一人 その他()

問2 今回のツアーを何で知りましたか。(いくつでも可)

ニセコ町のホームページ ニセコリゾート観光協会のホームページ
JTBのホームページ JTBのメールマガジン その他()

問3 今回のツアー参加を決める(最も強い)きっかけを教えてください。

電気自動車に乗ることに興味があったから
「環境(ゼロエミッション)の旅」というテーマに惹かれたから
ちょうど時間が空いていて 参加することにより特典があったから
その他()

問4 あなたが立ち寄った観光ポイントを、順番にご記入ください。

※「ドライブマップ」に番号がついてますので、その番号をお書きください。

【スタート】ホテル → → → → → → → → → →

問5 あなたが回った観光ポイントの中で、良かったところがありましたら、理由とともに教えてください。(複数書いていただいても構いません)

良かった観光ポイント	その理由

問6 電気自動車を利用して、ガソリン車に比べて、電気自動車が良かった点(優れているなど思った点など)、悪かった点(劣っているなど思った点、心配な点など)について記載してください。

良かった点 優れている点など	
悪かった点 劣っている点 心配な点など	

問7 実際に運転してみて、電気自動車の充電スタンドを設置する際に、どのような場所に設置すると良いと思われましたか。

問8 今後、ニセコ町内のホテルに電気自動車と充電スタンドが設置された場合、利用されますか。

利用したい
利用したくない
条件による(具体的な内容:)

問9 ニセコ町では、エネルギー自給率をあげて、二酸化炭素の排出量を削減していくことに取り組んでおり、その一環として電気自動車を利用した観光プログラムづくりを考えています。電気自動車でも観光することについて、どのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いもの1つにチェックしてください。

自家用車で 来られた方	<input type="checkbox"/> ニセコ町の環境に貢献できるならば、自家用から乗り換えても良い <input type="checkbox"/> 電気自動車に興味があるので、自家用車から乗り換えても良い <input type="checkbox"/> 自家用車から乗り換えるのは面倒なので(興味ないので)、乗り換ええない <input type="checkbox"/> 電気自動車に乗りたくないなので、乗り換ええない <input type="checkbox"/> 割引やサービスなど、自家用車での移動よりお得感があれば、乗り換えても良い <input type="checkbox"/> その他()
JR(鉄道)や バスで 来られた方	<input type="checkbox"/> ニセコ町の環境に貢献できるならば、乗っても良い <input type="checkbox"/> 電気自動車に興味があるので、乗っても良い <input type="checkbox"/> バスやタクシーなどの交通機関を利用するので、乗り換ええない <input type="checkbox"/> 電気自動車に乗りたくないなので、乗り換ええない <input type="checkbox"/> 割引やサービスなど、お得感があれば、乗っても良い <input type="checkbox"/> その他()

《ニセコ町についてのイメージと、ツアー全般へのご意見、ご感想などを自由にご記入ください》

◎ニセコのイメージについて

◎ツアー全般に対するご意見、ご感想

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

〔アンケートに関するお問い合わせ先〕(株)JTB北海道 地域コンテンツ開発室 担当:吉田 TEL:011-218-7171

(4) たびいくに関する住民アンケート

「旅育」に関するアンケートへのご協力をお願い

みなさまには、日頃よりニセコ町の地域振興に対し、ご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

ニセコ町では、旅行を通じて環境等を学び体験する「旅育」の場として、本町の観光資源を生かして取り組んでいくことができないか検討する調査事業を国に提案し、採択されました。

そこで、調査事業の一環として、本町が「旅育」に取り組んでいくうえで、どのような資源を生かすことができるか、また、事業化していく可能性などについて、日頃、地域づくりや産業振興などで活躍されているみなさんからご意見を頂戴したく、このアンケートを実施させていただきました。

時節柄お忙しいことと存じますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

ニセコ町長 片山 健也

◎ご記入後、同封の返信用封筒にて、切手を貼らずに、**2月1日（金）**までにご返送ください。

[当アンケートに関するお問い合わせ先]

(株) JTB北海道 地域コンテンツ開発室 担当：吉田（電話：011-218-7171）

趣味を実益につなげ、ニセコの観光を盛り上げる 「旅育」へのご意見をお寄せください。

「旅育」とは、旅を通じて、地域の文化や産業を学んだり、地域の人と交流したりすることで、感受性や知見を高めていくことです。

町内には、さまざまな趣味や特技、技術や知識をお持ちの方々が多くいらっしゃいます。また、ニセコを気に入ってくださった観光客のみなさまから、『もっとニセコを楽しみたい、ニセコで体験できることを増やしてほしい』という声を聞きます。

そこで、みなさんの趣味や特技、知識などを生かした体験メニューを「ニセコ旅育プログラム」として観光客に提供し、みなさんの趣味を実益につなげることができないかと考えています。

参加意向だけでなく、「旅育」に対する全般的なご意見もいただきたく、アンケートをお送りしました。ご協力よろしくお願い致します。

お寄せいただいたご回答は、統計的に集計し、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用したりすることはありません。集計後は個人情報保護法に基づき調査票を速やかに適正処分しますので、安心して率直なお考えをお書きください。

アンケート票

はじめに、ご自身のことについて、あてはまるものに○をつけてください。

性別について	1. 男性	2. 女性			
年齢について	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	5. 50代
	6. 60代	7. 70代	8. 80代以上		
ご職業について	1. 農業	2. 飲食業	3. 宿泊業	4. 小売・製造業	
	5. 体験・観光事業		6. 家事専業	7. その他	

問1 みなさんの趣味や特技、知識などを生かした体験メニューを「ニセコ旅育プログラム」として観光客に（有償で）提供するとしたら、あなたはどのように思われますか。
AからDの中で、あてはまるものひとつに○をつけてください。

- A. 自分の趣味や特技、知識などを生かして、プログラムを提供したい
- B. 関心はある。でも、問題点や不安があり、現状では提供は難しい
- C. 自分でプログラムはつくれないが、手伝ってみたい → 問6へ
- D. プログラムの提供や手伝いはできない（しない） → 問7へ

} → 問2へ

問2 (問2～問5については、問1でAまたはBに○をつけた方におたずねします。)

ガイドや講師として、どのようなプログラムを提供することが考えられますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 農業や林業などの体験（農作業、作物の収穫、林業体験・・・）
2. 自然を生かした体験（散策・登山・トレッキング、鳥・星観察、雪遊び、カメラ撮影・・・）
3. ニセコをもっと知ってもらおう講話（自然について、動植物について、温泉について・・・）
4. ニセコの食材や資源を楽しんでもらう体験（料理・お菓子・お茶教室、アロマオイル教室、フラワーアレンジメント教室、手芸教室、木工・陶芸・ガラス細工教室・・・）
5. その他（テーマや内容など： _____）

→ 問3へお進みください

問3 (問2～問5については、問1でAまたはBに○をつけた方におたずねします。)

ガイドや講師としてプログラムをつくり、提供するうえで、心配な点や不安な点は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 事業として採算が見込めるか
2. 参加者が見込めるか (自分のプログラムで人が集まるか)
3. 自分の体験観光メニューを、広く町外の人に情報発信できるか
4. 当日の手伝いなど、人手がほしい時にスタッフをそろえることができるか
5. 予約の受付、精算業務などを (自分だけで) 行うことができるか
6. 参加者とトラブルが起きないか (事故やけがの際の対応など)
7. その他 ()
8. 特に心配や不安はない

→ 問4へお進みください

問4 (問2～問5については、問1でAまたはBに○をつけた方におたずねします。)

ご自身がプログラムづくりをする (運営する) うえで、あったらいいと思うサポートは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. プログラムづくりへのアドバイス
2. 自分のプログラムを広く紹介 (PR) してくれる体制
3. プログラムを提供している方々同士が、情報交換やノウハウの共有ができる体制・機会
4. プログラムを安定して継続していくための運営アドバイス
5. 事故やけが等への対応 (傷害保険への加入を全体でまとめて行うなど)
6. 当日サポートしてくれる人手が必要な時、手伝いを派遣してくれる体制
7. 予約の受付、精算などを代行してくれる体制
8. その他 ()

→ 問5へお進みください

問5 (問2～問5については、問1でAまたはBに○をつけた方におたずねします。)

プログラムを開催するとしたら、どの時期に開催が可能ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 通年開催が可能
2. 春 (3～5月)
3. 夏 (6～8月)
4. 秋 (9～11月)
5. 冬 (12～2月)

→ 問8へお進みください

～このページは、みなさん、回答をお願いします。～

問8 プログラムをつくるにあたって、みなさんがおすすめのニセコの素材はありませんか。

「観光客に楽しんでもらえそうな場所、風景、食材、料理がある」「〇〇さんの話や趣味、特技をプログラムにしては」「歴史や文化、町が取り組んでいる〇〇をテーマにしては」など、ご自分のことに限らず、広くおすすめできるものがありましたら、お書きください。

--

問9 「旅育」に取り組んでいくうえでのアイデアやアドバイスをはじめ、「旅育」全般に対するご意見をお聞かせください。

--

問10 「ニセコ旅育プログラム」に取り組んでいくうえで、意見交換や提案募集などを行う際、ご案内などを送付させていただくことが可能な方は、連絡先をお書きください。

(ご連絡先をいただいた方には、改めてお問合せする可能性があります。ご了承ください)

ご住所：〒 _____
ご氏名：
メールアドレス：

アンケート回答にご協力いただき、ありがとうございます。

返信用封筒に入れて、切手を貼らずに、**2月1日（金）**までにご返送ください。